

教育課程に関する届等
～作成の手引～

令和 6 年 1 月
呉市教育委員会

別紙様式 1 (留意点)

令和●年度○○中学校区研究推進計画

校番 () () 学校

校長名

1 学校教育目標

2 目指す児童生徒像

3 育成を目指す資質・能力 (具体の姿)

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
後期			
中期			
前期			

4 研究主題等

(1) 研究主題

- 研究主題は、多面的な実態分析のもと、課題等を明らかにし、設定した「目指す児童生徒像」及び「育成を目指す資質・能力」を踏まえて設定すること。
- 全教職員が「何を目指し、どのように研究をするのか」と見通しをもつことができる研究主題を設定すること。

(2) 設定理由 (校区の児童生徒の課題分析等)

- 中学校区の自主的, 自律的, そして創造的な教育研究を推進するために、昨年度の研究の成果と課題を生かし、研究仮説等を焦点化, 具体化すること。
- 学力調査等の分析を研究に反映させていくこと。

(3) 研究仮説

5 研究内容

6 検証について

(例)

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 学びを深める授業を創造することができたか。	授業評価票	研究授業における教職員の相互評価値の平均（4段階評価）	2.8	3.2以上
	教師アンケート	教職員の肯定的評価値の平均（4段階評価）	3.0	
② 資質・能力を育成することができたか。	児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価	—	3.2以上
③ 児童生徒の学力が向上したか。	全国学力・学習状況調査（国語、算数・数学）	全国平均との差	-3.2	全国平均との差 小学校 +5 中学校 +3

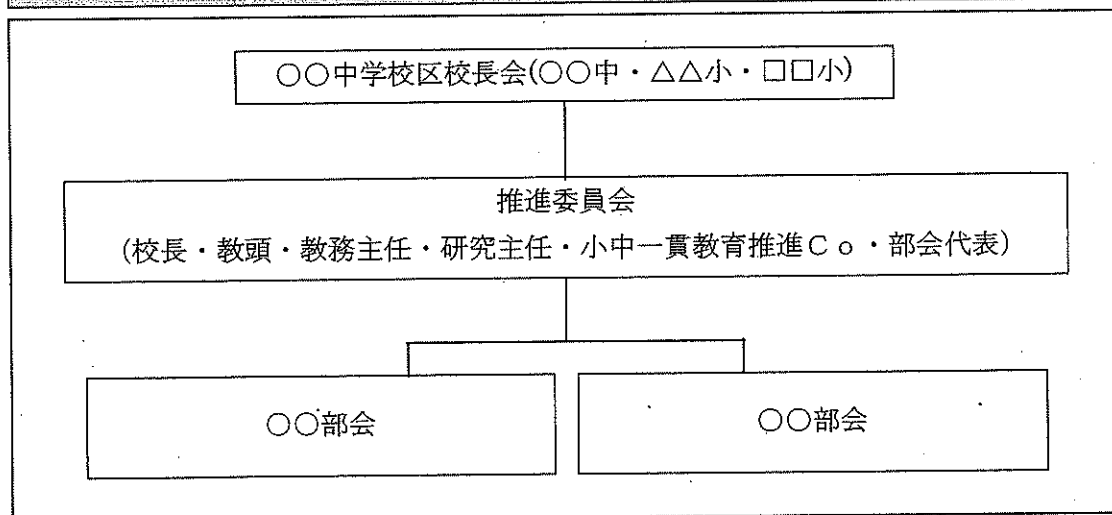
検証は、中学校区の児童生徒の変容を事実に基づいて確かめるものであり、研究内容が有効なものであったか判断するものである。そのために、資料の収集と検証方法の決定等、より確かな検証となるよう見通しをもった計画を立案すること。

現状値がない場合は、「—」を記入する。

7 推進体制等

(1) 推進組織

研究主題に迫る部会を設定するとともに、部会の目標・方策を明らかにし、部会員で共有して取り組むこと。



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等（中→小，小→中）

(例)

(中→小)

- ・小学校第6学年 体育科（週1回実施）
- ・小学校第6学年 算数科（2学期実施）
- ・小学校第5学年 音楽科（3学期実施）

計画的に位置付けること。

(小→中)

- ・中学校第1学年 特別の教科 道徳 (1学期実施)
- ・中学校補習授業 (夏季休業中に実施)

イ 小学校教科担任制等
(例)

- ・〇〇小 第〇学年 (理科)
- ・△△小 第〇学年 (音楽・家庭科)

専科による授業、交換授業を実施している場合は、記載すること。実施していない場合は、「なし」と記載すること。

8 推進計画

呉市教育委員会以外の講師を招聘する場合は、計画に記載すること。

月 日	内容		
	□□中	〇〇小	△△小
4月〇日	全体研修 (今年度の方向性の確認)		
5月〇日		理論研修 講師 〇〇大学 教授 〇〇〇〇	
7月〇日	授業研究 (〇年)		
8月〇日	全体研修 講師 〇〇大学 教授 〇〇〇〇	中学校区合同で実施する場合は、枠を結合して記載すること。	
9月〇日	全体研修 全国学力・学習状況調査等	小中合同分析	
10月〇日			授業研究 (〇年) 指導・助言者 〇〇大学 教授 〇〇〇〇
10月〇日	全体研修		
11月〇日	小中一貫教育地域公開		
11月〇日		自主公開	
11月〇日			自主公開
2月〇日	全体研修 (今年度の成果と課題、次年度に向けて)		

小中合同行事、小中一貫だより等の計画を記載すること。

9 その他

- ・小中一貫だより (年〇回発行予定)

※ 研究構想図、カリキュラムマップを添付する。

研究構想図は①または②としてください。

- ① これまでの各校の研究構想図を基に、「令和6年度〇〇中学校区研究推進計画」の内容に合わせて、加筆・修正したもの。
- ② 中学校区で、様式を統一したもの。

カリキュラムマップとは、各中学校区で設定した資質・能力の育成に向けて、総合的な学習の時間を核として、各中学校区の教育活動の全体像を見渡せるようにしたもの。

服務規律の確保に係る年間研修計画【記入例】

計画は月単位で作成する。

校番 () 呉市立〇〇〇

時期	研修内容	対象者	担当者	研修方法（資料等）
1 学期	4 ○ 教職員の服務について ・ 不祥事防止委員会の運営についての説明	全教職員	主幹教諭 事務長	○ ワークシートを用いた演習 ・ ワークシート「教員の一日」（自作資料） ・ 「教職員の勤務時間の適正管理について」（R3.4 広島県教育委員会） ・ 「呉市立学校教職員服務規程」（呉市教育委員会）
	5			
	6 ○ 体罰等の根絶について ・ 体罰、暴言、侮辱的な言動等についての事例研究	全教職員	生徒指導主事	○ 小グループに分かれての事例分析、全体協議 ・ 「教職員の不祥事防止に向けた新たな研修プログラムに係る研修資料」（岡山県教育委員会） ・ 「生徒指導規程」
	7			
2 学期	8 ○ わいせつ行為、セクシュアル・ハラスメントの根絶について ・ わいせつ行為、セクシュアル・ハラスメントについての事例研究	全教職員	体罰・セクハラ相談窓口担当者	○ 小グループに分かれての事例分析、全体協議 ・ 「教職員による不祥事の根絶」P18（H28.8 広島県教育委員会）
	9			
	10			
	11			
3 学期	12			
	1			
	2			
	3			

【対象者について】

会計年度任用職員を含めた研修も実施する。

【担当者について】

- ・ 研修内容に応じて、企画者を設定する。
- ・ 管理職だけにならないようにする。

【研修方法について】

- ・ 教職員が主体的に取り組むことができるよう工夫する。
- ・ 資料を活用する場合は、資料名及び出典を記載する。

【研修内容について】

- ・ 適切な時期、月に実施するよう工夫する。
- ・ 関係機関との取組（〇〇月間）と連携して実施する等、工夫する。
- ・ 次の内容を必ず入れること。
 - ① 体罰の根絶
 - ② わいせつ行為、セクシュアル・ハラスメントの根絶
 - ③ パワー・ハラスメントの根絶
 - ④ 個人情報の適切な管理
 - ⑤ 交通事故防止、飲酒運転の根絶
 - ⑥ 適切な会計管理
 - ⑦ 働き方改革（勤務時間の適正管理）

研修の実践事例の交流等ができるよう、各校においては記録者を定め、研修内容の記録、資料の保存等を行う。

※ A4判で提出すること。

令和6年度 各教科等の年間指導計画の提出について

1 各教科等の年間指導計画の様式について

- (1) 各学年をA3判 1枚で提出する。
- (2) ただし、A3判に記載している次の教科等は、全体計画等を付ける。

ア 外国語…呉版外国語科学習到達目標（別紙様式4）

※ 学習到達目標とは

「学習指導要領に基づき、各中・高等学校が生徒に求められる英語力を達成するための目標（学習到達目標）を「言語を用いて何ができるか」という観点から、『CAN-DO リスト』の形で具体的に設定」したもの

各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き

（平成25年3月 文部科学省初等中等教育局）

- イ 特別の教科 道徳…全体計画，別葉
- ウ 特別活動…全体計画
- エ 総合的な学習の時間…全体計画，年間指導計画

2 年間指導計画に記すマークについて

- (1) 呉市立小・中学校は，【中学校区の学力・体力分析における課題改善のための単元等】として，9年間を通して重点的に扱う単元（題材）に「貫」を付ける。（必須）
義務教育学校は，【本学園の学力・体力分析における課題改善のための重点的に取り組む単元等】として，9年間を通して重点的に扱う単元（題材）に「重」を付ける。（必須）
- (2) カリキュラムマップに位置付けた単元等を網掛けする。

各区分を入れる。

3つの柱にそって、中学校区で設定した資質・能力を記入する。

【中学校区の学力・体力分析における課題改善のための単元等】として、9年間を通して重点的に扱う単元（題材）に「★」を付ける。

※セルを選択すると、ドロップダウンリストで表示される。

セルを選択すると、「②道徳教材名」に入力した教材名等がドロップダウンリストで表示され、選択すると内容項目番号が自動で表示される。

各区分を入れる。

3つの柱にそって、中学校区で設定した資質・能力を記入する。

【中学校区の学力・体力分析における課題改善のための単元等】として、9年間を通して重点的に扱う単元（題材）に「★」を付ける。

※セルを選択すると、ドロップダウンリストで表示される。

セルを選択すると、「②道徳教材名」に入力した教材名等がドロップダウンリストで表示され、選択すると内容項目番号が自動で表示される。

各区分を入れる。

3つの柱にそって、中学校区で設定した資質・能力を記入する。

【中学校区の学力・体力分析における課題改善のための単元等】として、9年間を通して重点的に扱う単元（題材）に「★」を付ける。

※セルを選択すると、ドロップダウンリストで表示される。

セルを選択すると、「②道徳教材名」に入力した教材名等がドロップダウンリストで表示され、選択すると内容項目番号が自動で表示される。

各区分を入れる。

3つの柱にそって、中学校区で設定した資質・能力を記入する。

【中学校区の学力・体力分析における課題改善のための単元等】として、9年間を通して重点的に扱う単元（題材）に「★」を付ける。

※セルを選択すると、ドロップダウンリストで表示される。

セルを選択すると、「②道徳教材名」に入力した教材名等がドロップダウンリストで表示され、選択すると内容項目番号が自動で表示される。

各区分を入れる。

3つの柱にそって、中学校区で設定した資質・能力を記入する。

【中学校区の学力・体力分析における課題改善のための単元等】として、9年間を通して重点的に扱う単元（題材）に「★」を付ける。

※セルを選択すると、ドロップダウンリストで表示される。

セルを選択すると、「②道徳教材名」に入力した教材名等がドロップダウンリストで表示され、選択すると内容項目番号が自動で表示される。

- ・各中学校区の小・中学校で連携し、作成する。
- ・同一のものを、各学校名でそれぞれ提出する。

	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
中学校第3学年	はつきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができる。	社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができる。	社会的な話題に関して開いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べる。	社会的な話題に関して開いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができる。	社会的な話題に関して開いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができる。
	Unit 2 Haiku in English 今の状況や寝ている状態の対話を聞いて、要点を捉えることができる。	Unit 4 Be Prepared and Work Together 地域の一員として防災に取り組む意欲をもつために、外国人支援の取組について書かれた文章の要点を捉えることができる。	Unit 5 A Legacy for Peace どのような人々やものを伝えるために、言葉に情報を加えて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。	Unit 6 Beyond Borders 国を越えて助け合うために、世界の現状についての話を聞いて概要を捉え、自分の感想や考えを伝えることができる。	Unit 1 Sports for Everyone 日本を訪れる外国人に楽しんでもらうために、その人の経験や希望をもとに、日本滞在中のプランを考えて、メールを書くことができる。
中学校第2学年	はつきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができる。	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができる。	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。
	Unit 1 A Trip to Singapore お互いの予定などを知るために、休暇や週末の予定などについての対話を聞いて、主な内容を理解することができる。	Unit 2 Food Travels around the World 身近なもののことについて、どのようにしたらよいかを理解したりだれかに説明したりするために、便宜方ややり方について、大まかな内容を捉えることができる。	Unit 1 A Trip to Singapore 伝えるために、職業体多実や意見を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を書くことができる。	Unit 3 My Future Job 職業体多実や意見を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を書くことができる。	Unit 2 Food Travels around the World クラスメートがすすめるレストランを紹介するために、自分の考えやおすすめ理由について、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。
中学校第1学年	はつきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができる。	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができる。	関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。	関心のある事柄や体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて即興で説明することができる。	関心のある事柄や体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて即興で説明することができる。
	Unit 2 Our New Teacher 身近な人やもの、知らない人やもの、ふだんの行動などについての対話を聞いて、必要な情報を聞き取ることができる。	Unit 7 Foreign Artists in Japan 文化や言葉、食べ物などについて知るために、その情報についてのやり取りを頼んで、必要な情報を読み取ることができる。	Unit 4 Friends in New Zealand 相手に指示したり、時刻や好きのについて、簡単な語句や文を用いて即興で答えたりすることができる。	Unit 5 A Japanese Summer Festival 行った場所やそこで楽しんだことなどについて、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。	Unit 11 This Year's Memories 思い出を残すために、体験したことや感じたこと、簡単な語句や文を用いて日記を正確に書くことができる。
小学校第6学年	はつきりと話されれば、日常の身近な事柄について、必要な情報を聞き取ることもできる。	日常の身近な事柄について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることもできる。	関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。	関心のある事柄や体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて即興で説明することができる。	関心のある事柄や体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて即興で説明することができる。
	Unit 1 This is my name and my address. 名前や住所についての対話を聞いて、必要な情報を聞き取ることができる。	Unit 10 Winter Vacation 冬休みの思い出や過去の出来事について書かれた文章を読んで、過去にしたことについて、必要な情報を読み取ることができる。	Unit 4 Friends in New Zealand 相手に指示したり、時刻や好きのについて、簡単な語句や文を用いて即興で答えたりすることができる。	Unit 5 A Japanese Summer Festival 行った場所やそこで楽しんだことなどについて、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。	Unit 11 This Year's Memories 思い出を残すために、体験したことや感じたこと、簡単な語句や文を用いて日記を正確に書くことができる。
小学校第5学年	はつきりと話されれば、日常の身近な事柄について、必要な情報を聞き取ることもできる。	日常の身近な事柄について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることもできる。	関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。	関心のある事柄や体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて即興で説明することができる。	関心のある事柄や体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて即興で説明することができる。
	Unit 3 What do you want to study? 登場人物が学びたい教科ややりたい職業について聞き取ることができる。	Unit 8 My Future, My Dream 友達が作成した「夢宣言カード」を読み、その友達の中学校生活や将来の夢についての内容が分かる。	Unit 7 My Best Memory 小学校生活の思い出について、その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる。	Unit 9 A Surprise Party 現在の状況を伝えるために、人が今していることについて、簡単な語句や文を用いて即興で説明することができる。	Unit 11 This Year's Memories 思い出を残すために、体験したことや感じたこと、簡単な語句や文を用いて日記を正確に書くことができる。
小学校第4学年	はつきりと話されれば、日常の身近な事柄について、必要な情報を聞き取ることもできる。	日常の身近な事柄について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることもできる。	関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。	関心のある事柄や体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて即興で説明することができる。	関心のある事柄や体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて即興で説明することができる。
	Unit 4 He can bake bread well. 地域の身近な人の職業やできることなどについて聞き取ることができる。	Unit 10 Winter Vacation 冬休みの思い出や過去の出来事について書かれた文章を読んで、過去にしたことについて、必要な情報を読み取ることができる。	Unit 7 My Best Memory 小学校生活の思い出について、その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる。	Unit 9 A Surprise Party 現在の状況を伝えるために、人が今していることについて、簡単な語句や文を用いて即興で説明することができる。	Unit 11 This Year's Memories 思い出を残すために、体験したことや感じたこと、簡単な語句や文を用いて日記を正確に書くことができる。
小学校第3学年	はつきりと話されれば、日常の身近な事柄について、必要な情報を聞き取ることもできる。	日常の身近な事柄について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることもできる。	関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。	関心のある事柄や体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて即興で説明することができる。	関心のある事柄や体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて即興で説明することができる。
	Unit 5 Where is the post office? 道案内されている場所やさがしものがどこにあるかを聞き取ることができる。	Unit 10 Winter Vacation 冬休みの思い出や過去の出来事について書かれた文章を読んで、過去にしたことについて、必要な情報を読み取ることができる。	Unit 7 My Best Memory 小学校生活の思い出について、その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる。	Unit 9 A Surprise Party 現在の状況を伝えるために、人が今していることについて、簡単な語句や文を用いて即興で説明することができる。	Unit 11 This Year's Memories 思い出を残すために、体験したことや感じたこと、簡単な語句や文を用いて日記を正確に書くことができる。
小学校第2学年	はつきりと話されれば、日常の身近な事柄について、必要な情報を聞き取ることもできる。	日常の身近な事柄について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることもできる。	関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。	関心のある事柄や体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて即興で説明することができる。	関心のある事柄や体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて即興で説明することができる。
	Unit 3 What do you want to study? 登場人物が学びたい教科ややりたい職業について聞き取ることができる。	Unit 8 My Future, My Dream 友達が作成した「夢宣言カード」を読み、その友達の中学校生活や将来の夢についての内容が分かる。	Unit 7 My Best Memory 小学校生活の思い出について、その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる。	Unit 9 A Surprise Party 現在の状況を伝えるために、人が今していることについて、簡単な語句や文を用いて即興で説明することができる。	Unit 11 This Year's Memories 思い出を残すために、体験したことや感じたこと、簡単な語句や文を用いて日記を正確に書くことができる。
小学校第1学年	はつきりと話されれば、日常の身近な事柄について、必要な情報を聞き取ることもできる。	日常の身近な事柄について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることもできる。	関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。	関心のある事柄や体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて即興で説明することができる。	関心のある事柄や体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて即興で説明することができる。
	Unit 4 He can bake bread well. 地域の身近な人の職業やできることなどについて聞き取ることができる。	Unit 10 Winter Vacation 冬休みの思い出や過去の出来事について書かれた文章を読んで、過去にしたことについて、必要な情報を読み取ることができる。	Unit 7 My Best Memory 小学校生活の思い出について、その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる。	Unit 9 A Surprise Party 現在の状況を伝えるために、人が今していることについて、簡単な語句や文を用いて即興で説明することができる。	Unit 11 This Year's Memories 思い出を残すために、体験したことや感じたこと、簡単な語句や文を用いて日記を正確に書くことができる。

<各学年末の学習到達目標>

学習指導要領が示す目標に基づいて、各学年末に領域別で到達すべき目標を記述する。

<単元等の目標 (中学校)>

生徒の実態に応じて、各学年・各領域で、重点を置いて指導する単元等 (Let's Listen, Stage Activity 等を含む) を2つ程度取り上げ、その目標を記述する。

<特に小中接続を意識して指導する学年>

小学校第6学年と中学校第1学年を二重線枠で囲む。

<小中接続のために重点を置いて指導する単元等>

小中接続のために重点を置いて指導する単元等をBRIDGEとして、四角枠内に記述する。

また、音声面を重視し、「聞くこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」の3領域には必ずBRIDGEを設定する。

<各中学校区で重点を置いて指導する領域>

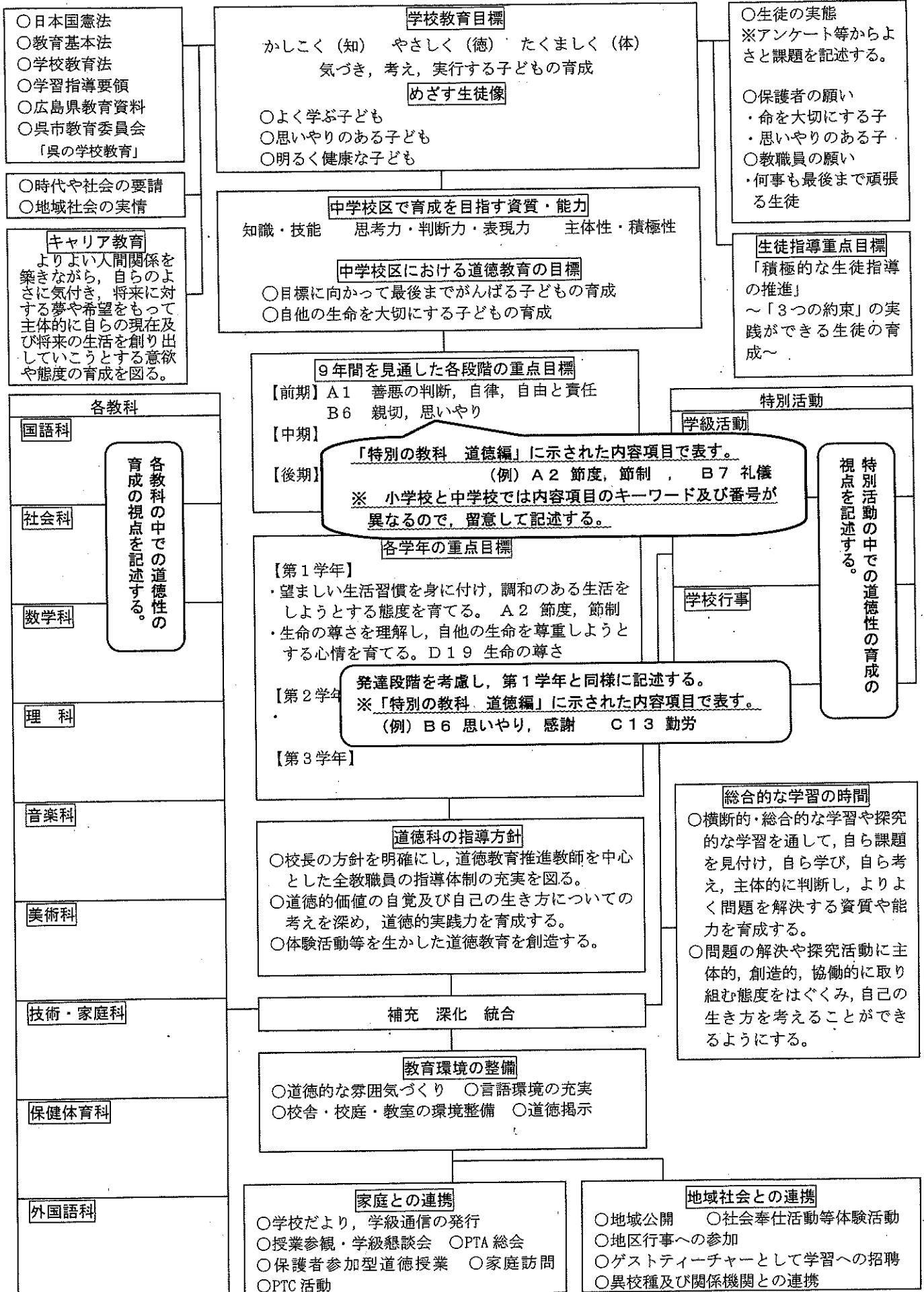
学力調査等から、各中学校区で重点を置いて指導する領域を太枠で囲む。

<単元等の目標 (小学校)>

児童の実態に応じて、各学年・各領域で、重点を置いて指導する単元等 (Check Your Steps を含む) を2つ程度取り上げ、その目標を記述する。小学校が複数ある中学校区は、児童の実態に応じて、小学校ごとで重点を置いて指導する単元等を設定することができる。その場合は、目標の後に【〇〇小】と明記する。

○日本国憲法 ○教育基本法 ○学校教育法 ○学習指導要領 ○広島県教育資料 ○呉市教育委員会 「呉の学校教育」	学校教育目標 かしこく（知） やさしく（徳） たくましく（体） 気づき、考え、実行する子どもの育成 めざす児童像 ○よく学ぶ子ども ○思いやりのある子ども ○明るく健康な子ども	○児童の実態 ※アンケート等からよさと課題を記述する。 ○保護者の願い ・命を大切にする子 ・思いやりのある子 ○教職員の願い ・何事も最後まで頑張る子
○時代や社会の要請 ○地域社会の実状	中学校区で育成を目指す資質・能力 知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性	生徒指導重点目標 「積極的な生徒指導の推進」 ～「3つの約束」の実践ができる児童の育成～
キャリア教育 よりよい人間関係を築きながら、自らのよさに気づき、将来に対する夢や希望をもって主体的に自らの現在及び将来の生活を創り出していかうとする意欲や態度の育成を図る。	中学校区における道徳教育の目標 ○目標に向かって最後までがんばる子どもの育成 ○自他の生命を大切にする子どもの育成	
各教科	9年間を見通した各段階の重点目標	特別活動
国語科	【前期】 A1 善悪の判断、自律、自由と責任 D17 生命の尊さ	学級活動
社会科	【中期】	クラブ活動
算数科	【後期】	学校行事
理科	「特別の教科 道徳編」に示された内容項目で表す。 (例) A3 節度、節制、 B8 礼儀 ※ 小学校と中学校では内容項目のキーワード及び番号が異なるので、留意して記述する。	特別活動の中での道徳性の育成の視点を記述する。
生活科	低・中・高学年における重点目標	
音楽科	【低学年】 ・よいことと悪いことを区別し、よいと思うことを進んで行う態度を育てる。 A1 善悪の判断、自律、自由と責任 ・生きることのすばらしさを知り、生命を大切にしようとする心情を育てる。 D17 生命の尊さ 【中学年】 発達段階を考慮し、低学年と同様に記述する。	
図画工作科	【高学年】	
家庭科	道徳科の指導方針	総合的な学習の時間
体育科	○校長の方針を明確にし、道徳教育推進教師を中心とした全教職員の指導体制の充実を図る。 ○道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成する。 ○体験活動等を生かした道徳教育を創造する。	○横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。 ○問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度をばぐみ、自己の生き方を考えることができるようにする。
外国語科	補充 深化 統合	外国語活動
外国語科	教育環境の整備	日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方に気付く。
外国語科	家庭との連携	地域社会との連携
外国語科	○学校だより、学級通信の発行 ○授業参観・学級懇談会 ○PTA 総会 ○保護者参加型道徳授業 ○家庭訪問 ○TC 活動	○地域公開 ○社会奉仕活動等体験活動 ○地区行事への参加 ○ゲストティーチャーとして学習への招聘 ○異校種及び関係機関との連携

「外国語科」の欄を加える。



保護者・地域の願い	① 〇〇〇学校 学校教育目標	児童の実態												
② 〇〇〇学校 総合的な学習の時間の目標 探究的な見方・考え方を働かせ、・・・ (1)地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、・・・ (2)地域の人、もの、ことの中から問いを見だし、その解決に向けて・・・ (3)地域の・・・ 各学校において定める目標は、 「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」 第3章第1節・第5章第2節を参考に設定する。 ※「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」p79～80参照 「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」p75～77参照 育成を目指す資質・能力 Ⅱ 思考力・判断力・表現力【学びに向かう力、人間性等】Ⅲ 主体性 Ⅳ 協働性														
③ 〇〇〇学校 総合的な学習の時間の内容 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <th style="width: 30%;">目標を実現するにふさわしい 探究課題</th> <th colspan="3">探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">知識及び技能</td> <td style="text-align: center;">思考力、判断力、表現力等</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">学びに向かう力、人間性等</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">Ⅰ 知識・技能</td> <td style="text-align: center;">Ⅱ 思考力・判断力・表現力</td> <td style="text-align: center;">Ⅲ 主体性</td> <td style="text-align: center;">Ⅳ 協働性</td> </tr> </table> ※「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」p73～77参照 「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」p69～74参照 各学校が設定する内容によって異なるため、学習指導要領には示されていない。探究課題を通して身に付けさせたい概念的知識と探究課題を解決するために必要な技能について具体的に示す。 ※「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」p78～79参照 「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」p74～75参照 ※「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」p81～82参照 「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」p77～79参照 【第〇学年】 【第〇学年】 ※「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」p89～91参照 「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」p85～87参照 教科等を越えた全ての学習の基礎となる資質・能力			目標を実現するにふさわしい 探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等		Ⅰ 知識・技能	Ⅱ 思考力・判断力・表現力	Ⅲ 主体性	Ⅳ 協働性
目標を実現するにふさわしい 探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力													
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等												
Ⅰ 知識・技能	Ⅱ 思考力・判断力・表現力	Ⅲ 主体性	Ⅳ 協働性											
<④ 学習活動> <⑤ 指導方法> <⑥ 指導体制> <⑦ 学習の評価>														

<必須の要件として記すもの>

① 各学校における教育目標（学校教育目標）

② 各学校において定める目標 ※昨年度設定したものを見直す。

・学校教育目標と直接つながるものであるか。

・学習指導要領解説に示された（設定例）そのものになっていないか。

③ 各学校において定める内容→目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力

<基本的な内容や方針等を総括的に示すもの>

④ 学習活動 ⑤ 指導方法 ⑥ 指導体制 ⑦ 学習の評価

学校教育目標

*「答へて主小国議の冬」の項目における数語主小下の「幼旧時」の綴りまで「驚て屋小」の姿に關連するものである。（参考：「幼稚園教育要領（平成29年告示）」文部科学省）

[illegible]

読書活動推進のための目標		(例)読書習慣を身に付けさせ、主体的に本を読み、情報豊かな子供を育成する。											
不読率の目標		(例)2%以下											
月		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
読書活動の指導計画	各教科												
	特別の教科 道徳												
	外国語活動 (小学校第3・4学年)												
	総合的な学習の時間												
	特別活動												
全校一斉読書 (朝読書等)													
読み聞かせ等の読書活動 (本の題名・異学年・異校種交流等の方法等)		読み聞かせ、ブックトーク、推薦図書コーナーの設置、読書週間等、全校一斉読書以外の読書活動推進のための取組について記述する。											
読書ボランティアとの連携 図書館司書・公立図書館との連携													
家庭との連携		親子読書週間等、家庭での読書を促す取組について記述する。											
推薦図書		校内で選定した推薦図書の題名や紹介方法等を記述する。											
生き方を考え表現する 機会の設定		読書感想文・作文コンクール等(ブックリスト読書感想文、「命かがやけ」作文など)への参加について記述する。											

【参考】吳市教育振興基本計画における指標は、小学校は「2.0%以下」、中学校は「8.0%以下」

児童生徒の実態を踏まえ、読書活動の推進に向けた目標を設定する。

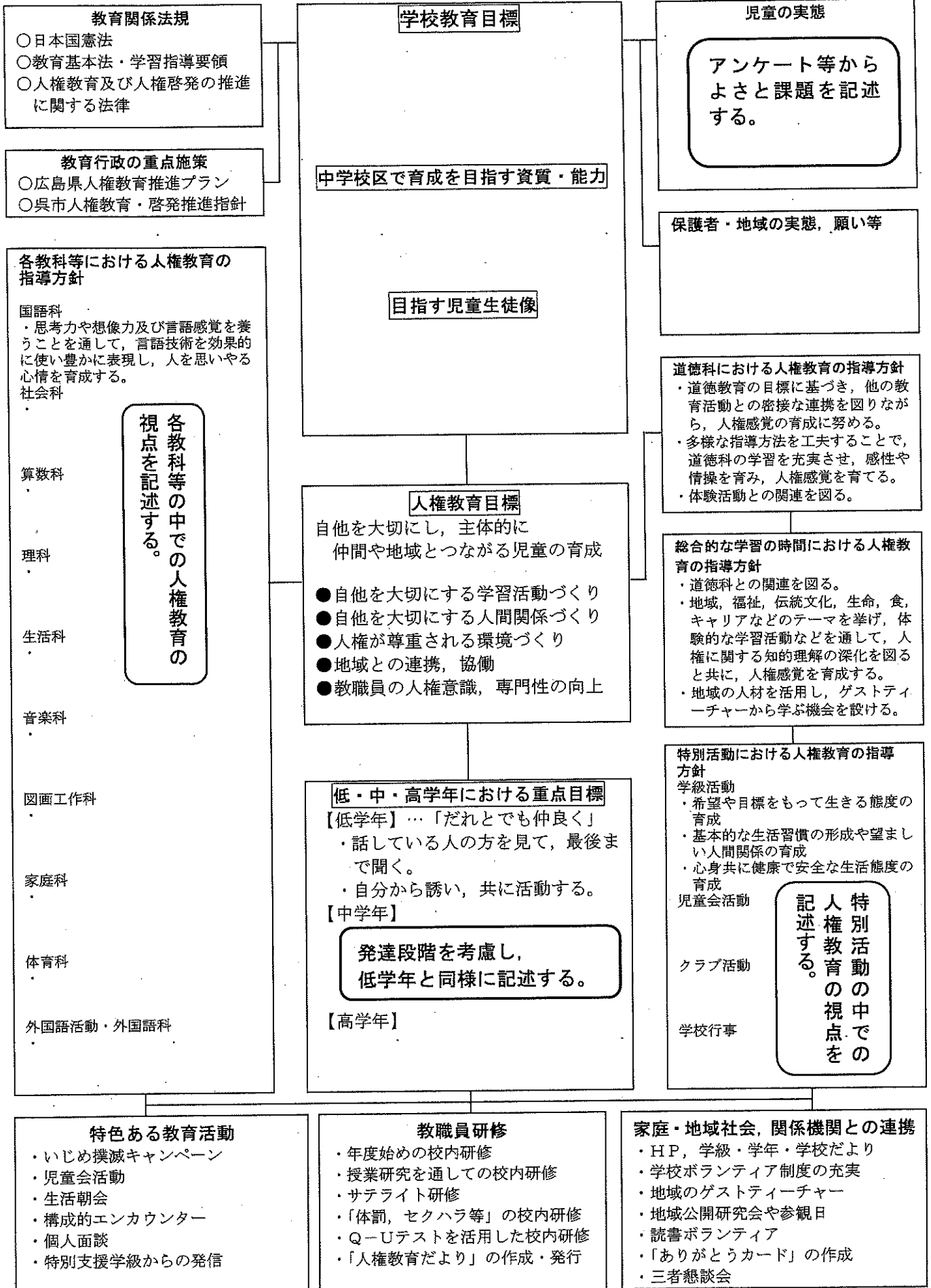
読み聞かせ、ブックトーク、推薦図書コーナーの設置、読書週間等、全校一斉読書以外の読書活動推進のための取組について記述する。

親子読書週間等、家庭での読書を促す取組について記述する。

校内で選定した推薦図書の題名や紹介方法等を記述する。

読書感想文・作文コンクール等(ブックリスト読書感想文、「命かがやけ」作文など)への参加について記述する。

※ 用紙はA4判とする。
※ 様式、項目等については各学校で工夫する。





令和〇年度生徒指導推進計画

呉市立

学校

1 実態（問題行動、いじめ、不登校等の状況を含めて）

暴力行為、いじめ等の問題行動、不登校等の状況等、数値を含め、具体的に記述する。

2 生徒指導重点目標（実態と課題を踏まえた重点目標）

(1) 中学校区

実態と課題を踏まえた重点目標とする。

(2) 自校

実態と課題を踏まえた重点目標とする。

3 校内生徒指導体制

- ・生徒指導部会（仮称）を位置付け、構成員及び活動状況を記述する。
- ・小学校では、生徒指導主事（主任）の有無及び位置付けを記述する。

4 問題行動発生時の対応マニュアル

- ・暴力行為等の問題行動が発生したときの連絡体制及び指導の手順
- ・警察等の関係機関との連携

5 その他

- ・犯罪防止教室の実施状況
- ・いじめ撲滅プロジェクトチームの構成員・活動状況
- ・教育相談体制
- ・連携（小中、地域及び関係機関）における具体的な活動状況
- ・校内研修の実施状況
- ・緊急時における連絡体制 等

6 生徒指導年間計画

月日	PDCAサイクル		取 組	概 要	小中、関係機関等連携
	長期	短期			
(例) 4月	P	P D D C A	・生徒指導部会（生徒指導推進計画の立案） ・1学期の計画立案 ・校門指導実施 ・学習規律の徹底指導実施 ・児童（生徒）生活実態調査実施 ・生徒指導部会（生徒指導推進計画の見直し）	・生徒指導重点目標を達成するための取組（方法）を、マネジメントサイクルを意識して具体的に記述する。	・生徒指導小中連絡会 ・小中合同あいさつ運動 ・小中合同生徒指導研修
5月	D				
6月					
7月					
8月					
3月	C	A	・児童（生徒）生活実態調査実施 ・生徒指導部会（本年度のまとめ）	・生徒指導重点目標と照らして、児童（生徒）の実態を把握し、取組を分析する。 ・次年度の取組の改善計画を検討する。	
	A				
			・取組のC（評価）を、「いつ」「どのように」行うのかを記述する。		

※ 用紙はA4判とする。

- ・いじめアンケート及び個人面談（年3回）、いじめ撲滅キャンペーン（年2回）、いじめ撲滅プロジェクトチームの取組（学期に1回以上）を記入すること。
- ・いじめ防止年間活動計画に生徒指導年間計画の内容を盛り込んでいる場合は、いじめ防止年間活動計画と同じものでよい。

- 1 各校、各中学校区において、「どのような児童生徒を育てたいのか」という児童生徒像と理念を明確にした上で策定する。
- 2 中学校区で連携し、令和5年度に策定した生徒指導規程を見直し、改善を行う。
- 3 指導基準や指導方法等が学校及び児童生徒の実態に合っているのか等を見直す。また、児童生徒や保護者等の意見も参考にしながら、社会から乖離していないか等も見直す。
- 4 校則や学校のきまりにとどまらず、これらを逸脱した場合の学校の対応も策定する。 いわゆる「特別な指導に関すること」（指導対象となる問題行動、反省指導の形態・実施方法、反省期間中の留意事項、反省期間の目安等）についても示すようにする。
- 5 次の点にもできるかぎり留意しながら、見直し作業を行う。
 - (1) 規程の内容を中学校区内で統一したり、小学校から中学校へ系統的に整理したりしているか。
 - (2) 暴力行為等への対応として、警察等関係機関との連携についても触れているか。
 - (3) 特別な指導を行う場所として、児童生徒が落ち着ける場所を位置付けているか。
 - (4) 保護者連携が必要な場合を明記しているか。
 - (5) 保護者に連絡し、了解を得て行うべき対応を明記しているか。
 - (6) 不要物を預かる場合の対応を明記しているか。
 - (7) 必要に応じて家庭訪問をして対応する場合や、保護者に来校を求め対応する場合が明記されているか。
 - (8) 児童生徒や保護者に周知することを踏まえ、できるだけ枚数を少なくし簡潔にまとめているか。
 - (9) 「いじめの定義」を基に、いじめを積極的に認知していくことを踏まえ、レベルに応じた対応を示しているか。

6 生徒指導提要の改訂を踏まえ、下記の点についても留意すること。

- 生徒指導規程を HP に掲載 ○性的マイノリティへの柔軟な対応
- 児童の権利条約「4つの原則」 ○児童生徒が参画し、校則を守ろうとする意識の醸成
- 児童、生徒、保護者等が校則について確認したり議論したりする機会

《具体的な視点》

- ①生まれ持った性質 → 地毛の色等
- ②様々な文化や性の多様性 → 制服に男女の区別を設け、選択の余地がないもの
性別ごとに違った髪型の規程をしているもの
- ③健康上の配慮 → 冬場の上着着用禁止など体調維持に問題が生じるもの
- ④合理的な説明が必要なもの → 肌着等の色の統一など、過剰に限定するもの

※令和5年度途中及び来年度へ向けて変更した箇所には、 網掛け等をしてください。

令和〇年度特別支援教育推進計画

全体に関わる留意事項

- ①学校全体の全ての学級に当てはまる内容として作成する。
②表記上、診断名(LD, アスペルガー症候群, ADHD等)は用いない。

校番 () 〇市立 〇学校

1 学校教育目標

2 特別支援教育重点目標

- ①「学校教育目標」との関連を図り、実態と課題を踏まえた重点目標を設定する。
②学校全体としての目標とする(全ての学級に共通する目標)。

3 校内委員会

(1) 構成図

- ①管理職を必ず位置付ける。
②特別支援教育コーディネーターが中心となるよう位置付ける。

(2) 役割

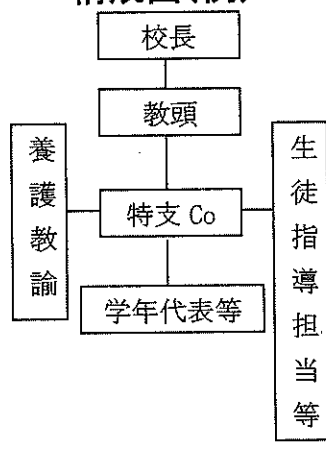
校内委員会が担う役割を明記する。

- 例：・実態把握の方法と支援の方向性の決定
・ケース会議による児童生徒の情報共有 等

4 特別支援教育コーディネーターの役割

特別支援教育コーディネーターの主な業務内容を記述する。

構成図(例)



5 年間計画

特別支援教育に関する年間計画表を明記する(校内委員会, 校内研修, 巡回相談, ケース会議等)。

6 外部専門家や関係機関(連携先と学校との関係図)

学校が連携を図っている関係機関や、巡回相談等で招聘する専門家と学校との連絡体制について図示する(学校としての窓口を明確にする)。

7 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と活用

(1) 実態把握の対象者と方法

(2) 作成手順(保護者の参画を必ず含める)

作成手順をフローチャートで示す。

(3) 活用

計画の活用方法を明記する。

例：校内委員会(ケース会議等), 関係機関との連携 等

学校生活, 授業において「個別の指導計画」をどう活用するか明記する。

*「広島県教育資料第2章Ⅲ特別支援教育の推進」及び「特別支援教育ハンドブックNo.2」参照

「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を必ず作成する対象者

○特別な支援が必要なすべての児童生徒

- ・特別支援学級在籍児童生徒
- ・通級指導教室を利用している児童
- ・就学指導委員会の意見が出ている児童生徒
- ・障害のある児童生徒
- ・特別な支援が必要な児童生徒

*作成への保護者の参画や保護者への配付については積極的に行う。

※A4判で提出すること。

令和6年度体力づくり推進計画 ＜全体計画＞

達成目標

実態把握	
学校の状況 	児童生徒の実態や体力・運動能力調査等から明らかになった課題
児童生徒の運動・生活習慣の実態 	広島県体力・運動能力、運動習慣等調査結果との比較から

取組事項 ①体育科・保健体育科 ②教科外 ③日常生活等 ④家庭・地域との連携	課題・達成目標・取組事項の3つに整合性をもたせること。 別紙様式9 体力づくり推進計画（年間指導計画）の①～④の取組事項と整合させること。	期待される効果
--	---	-----------------

推進組織

体制
体力・運動能力向上コーディネーターを必ず位置付け、推進組織に明記すること。

令和6年度体力づくり推進計画 <年間指導計画>

達成目標

～3月		4月	5月	6月	7・8月	9月	10月	11月	12月
Plan	Do	Check	Action	Plan	Do	Check	Action	Plan	Do
結果分析・計画立案		体力・運動能力 調査の実施 結果分析		見直しと改善計画の立案 計画に基づき実施		見直しと改善計画の立案 計画に基づき実施		評価 見直し・次年度の計画	
【①体育科・保健体育科】	【②教科外】	【③日常生活等】	【④家庭・地域との連携】	別紙様式8 取組事項①～④と 整合性をもたせること。					

令和〇年度 キャリア教育全体計画（例）

校番（ ） 〇〇市立 〇〇学校

関係諸法規等	学校教育目標	児童（生徒）、保護者、 地域の実態
社会の要請、地域との連携等	目指す児童（生徒）像	
中学校区で育成を目指す資質・能力		
キャリア教育推進の目標		
重点目標		
各学年、または、 低・中・高学年の目標		
各学年の指導目標		
学年	学年	学年

各教科等 基礎的・汎用的能力	各教科等における指導内容					その他の教育活動 保護者、地域との 連携
	各教科	道徳	特別活動		総合的な 学習の時間	
			学級活動	学校行事 その他の特別活動		
人間関係形成・ 社会形成能力						
自己理解・ 自己管理能力						
課題対応能力						
キャリア プランニング能力						

「基礎的・汎用的能力」の4能力が、各教科のどの指導内容に関連しているかを記述する。

「基礎的・汎用的能力」の4能力が、各教科のどの指導内容に関連しているかを記述する。

キャリア教育実践のための基盤

- ※ 小学校の外国語活動は、「各教科」に含めて記述する。
- ※ A4判で提出すること。
- ※ 様式等については、これを基本とし各校で創意工夫する。

令和〇年度キャリア教育年間指導計画(例)

校番()〈〇市立〇〇学校第 学年〉

月	学級活動	総合的な学習の時間	道徳	各教科	特別活動 その他
4月	中学生になって【自】		望ましい生活習慣 強い意志【課】	理「花のつくりと働き・植物の仲間」【課】 美「自画像のデッサン」【自】	学級開き【人】
5月	学習の目標と心構え【キ】	地域を知る① ～地域調べ～ 【課】	生活集団のルール【人】	体「健康な生活」【自】 国「図書館を利用した調べ学習の仕方」【課】	学習規律【自】
【人】【自】【課】【キ】 「基礎的・汎用的能力」の4能力の中で、主にどの能力を育成するか記入する。					
※ 学習指導要領を踏まえて作成すること。					
※ 参考資料 ●「小学校キャリア教育の手引き」(令和4年3月) ●「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」(令和5年3月) ●「キャリア教育を創る～学校の特色を生かして実践するキャリア教育」 (平成23年11月 文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター) ●「キャリア教育をデザインする『今ある教育活動を生かしたキャリア教育』 ー小・中・高等学校における年間指導計画作成のためにー」 (平成24年8月 文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター)					

【人】:人間関係形成・社会形成能力 【自】:自己理解・自己管理能力 【課】:課題対応能力 【キ】:キャリアプランニング能力

※ A4判で提出すること。

令和○年度危機管理の徹底に係る計画

校番 () 呉市立 学校

- 1 学校教育目標
- 2 前年度の成果と課題
- 3 本年度の重点目標
- 4 具体的な取組

観点	具体目標	具体的方策	評価
サービス管理			
教育課程管理			
会計管理			
安全管理			
健康管理			
情報管理			
その他			

記入例
サービス規律確保に向けての研修を毎月実施する。

「いつ」「誰が」「何を」「どのように」
評価するのか等、明確にする。

記入例
月1回、校内施設安全点検を実施し、
その日のうちに必ず点検を終わる。

記入例
勤務終了時には、机上を整理し、重要書類やUSB等は、
施錠できる場所に収納する。

※ A4判で提出すること。

記入例

令和6年度 特別の教育課程編成・実施計画

外国人児童生徒受入れの手引き改訂版
第3章P27を参照し、下の凡例の①～⑤
の中から選択。(複数選択可)

日本語プログラム①～⑤以
外の指導を行っている場合
には、記入。

学校名(校番)

学校長

提出日

指導形態による内訳を記入。指導
形態は下の凡例を参照し、ドロップ
ダウンリストのA～Dから選択。

No.	学年	児童生徒氏名 国籍(母国語)	学習 段階	日本語のプログラム					その他	年間指導目標や 指導計画の概要	適当な指導時数 (年間総指導時数)	内訳	指導形態	指導者
				①	②	③	④	⑤						
1	小2	〇〇〇〇 〇〇 ブラジル(ポルトガル語)	初期の 前期	〇	〇				交流プ ログラ ム	学校や社会生活に おいて、最低限の ルールを理解し、 意思疎通が文レベ ルでできる。	5 (175)	2 2 1	A 学級から取り出してグループ指導 B 学級から取り出して個別指導 D その他	〇〇 〇〇
下の凡例を参照し、ドロップダウンリストの3つの学習段階から選択。 「個別の指導計画」等に記載した内容を基に、年間の指導目標や指導計画の概要を記入。 週当たりの指導時数を記入。 ()内に年間の総指導時数を記入。 年度の指導開始日と指導を終了する予定日を記入。														
2											()			
3											令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日			
4	小4	〇 〇〇 フィリピン(タガログ語)	初期の 後期		〇	〇				日本語で学校生活に参加するために必要な基礎的な日本語の力を付ける。	4 (140)	3 1	B 学級から取り出して個別指導 C 学級の一斉指導の中での個別指導(入り込み指導)	〇〇 〇〇
5	小6	〇〇〇 〇〇〇〇 中国(中国語)	教科につな がる学習					〇 〇		日本語での教科等の学習に参加し、理解をする。	5 (95)	2 1 2	A 学級から取り出してグループ指導 B 学級から取り出して個別指導 C 学級の一斉指導の中での個別指導(入り込み指導)	〇〇 〇〇
6														
編入など、年度途中で指導を開始した場合は、順次追記。 年度途中で指導を終了した場合は、終了日を記入。														
7														
8														
【備考欄】 児童生徒数が多く、行数が足りない場合は、このシートをコピーして作成。 ○本計画書を教育委員会に提出した後、転編入児童生徒に対して新しく「特別の教育課程」による指導を始める、指導計画を変更する、または、「特別の教育課程」による指導を終了するなど、変更等があった場合は、速やかに担当指導主事へ連絡するとともに、各学校において適宜追加、修正を行うこと。 ○指導終了年月日を記入の上、令和7年3月28日までに実施報告として教育委員会に提出すること。														

【凡例】

学習段階：初期の前期 初期の後期 教科につながる学習

日本語のプログラム：① サバイバル日本語 ② 日本語基礎 ③ 技能別日本語 ④ 日本語と教科の統合学習 ⑤ 教科の補習

指導形態：A 学級から取り出してグループ指導 B 学級から取り出して個別指導 C 学級の一斉指導の中での個別指導(入り込み指導) D その他

個別の指導計画(児童生徒に関する記録)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
在籍					R2	R3	R4	R5	R6
フリガナ 児童生徒氏名 (通称)	(男・女)					国籍等	ブラジル		
フリガナ 保護者氏名 (通称)						続柄	父		
生年月日						出生地	ブラジル		
入国年月日	令和2年 3月 25日			学校受入年月日		令和2年 4月 1日			
家族構成	祖父, 父, 母, 姉, 本人, 弟								
家庭内使用言語	祖父・弟とは日本語, 父・母・姉とはポルトガル語								
生育歴・学習歴	ブラジルで, 小学校に就学。 令和2年度 前年度末に来日。小学校5年生に編入。 日本語指導を週に8時間。 令和3年度 日本語指導を週に5時間。 令和4年度～ 中学校入学 「特別の教育課程」による日本語指導を週に5時間。								
学校内外での支援状況	毎週土曜日2時間 ○○国際交流協会開催の日本語教室								
進路希望	進学(○○高校○○学科)								
その他 発達障害等の診断の有無 宗教上の配慮事項	等								

別紙様式 13

個別の指導計画（指導に関する記録）

児童生徒の日本語の力を、「話す、読む、書く、聞く」の4技能、あるいは①会話力（主として単語での発話か、単語をいくつかつなげて話しているか、どの程度の文が聞き取れているかなど）②文字の習得度（ひらがな・カタカナ・漢字が何年生程度かなど）③読解作文の力（単文レベルか、重文・複文まで可能か、それらで構成された文章はどのような内容まで理解できるかなど）などの視点から記入。											
児童生徒名							更新日	年	月	日	
日本語力	・基本的な文型で構成された2～3文の会話を、ゆっくりとした速さなら聞いて理解できる。 ・理解できる言葉であっても、自分で話したり書いたりできる内容は限定的である。 「日本語の能力に応じた指導プログラム例」の「大目標」を参考※注										
指導目標	【初期の後期段階】 ①日本語で学校生活に参加するために必要な文字や文など、基礎的な日本語の力を育てる。 ②日本の学校生活や社会生活において、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。										
指導計画											
「特別的教育課程」による日本語指導	月	4	5	6	7	8	9	「日本語の能力に応じた指導プログラム例」の「日本語の学習段階」を参考。※注			
	段階	初期の後期段階									
	日本語学習内容	①日本語の基礎学習									
		②技能別の日本語学習						②技能別の日本語学習			
		③日本語と教科の統合学習						③日本語と教科の統合学習			
		④教科の補習						④教科の補習			
指導計画	8月に計画を見直して記載してもよい。 資料「外国人児童生徒受入れの手引き改訂版」p27～の「日本語指導のプログラム」を参考。 【前期】 ①基本的な文型や語彙を使って会話ができるようにする。 ②平易な文で構成された、ある程度まとまった内容の文章を読んで理解できるようにする。 ③教科書を簡単な日本語に書き換えたもので在籍学級の授業の予習を中心に行う。 【後期】 ②算数・理科はなるべく教科書を使い、学習活動に必要な重要表現を取り上げて指導する。 ④未習事項が多いので、在籍学級の学習に関係する内容から補う。										
指導者	「日本語の学習内容」の内容別に記入。										
指導場所	「学習目標例」を参考。※注						指導時数	週4時間			
上記以外の指導等	社会科は週2時間、在籍学級でTT指導。 毎週土曜日、国際交流協会が開催する日本語教室へ参加。										
指導内容・方法に関する評価及び学習状況の評価等	・学習意欲はあるが、教科に関する未習事項が多く、授業内容に対応しきれていない。 ・関心のある分野であれば、ある程度まとまった文章を理解できるようになった。 ・表現することに苦手意識があるようなので、発言や作文がしやすいような支援方法を検討する必要がある。 指導内容・方法及びその達成状況について具体的に記入。 今後の指導の方向性や必要と考えられる具体的な指導内容等を記入。										